令和２年度　総 括 評 価 表

徳島県立板野高等学校

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
生徒指導の充実	（全校レベル） 1）きめ細かい生徒指導を行い，基本的生活習慣の確立に努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定）　B	自転車の交通マナーについて継続した指導が必要となっている。事故は以前より減少しているがゼロではないことから引き続き指導をお願いしたい。	○朝のあいさつ運動と合わせ、自転車の交通安全、歩行者の交通マナーを啓発する活動を展開する。
		1)-1　頭髪服装指導を定期的実施	1)-1　頭髪指導を定期的に実施した。きめ細かい指導を行うことで指導に納得できないという生徒や保護者は少なくなり、指導に対するトラブルは激減した。			
		1)-2　あいさつ・清掃の徹底	1)-2　清掃は、清掃チェックを美化委員が各学期に行った。 日々の清掃時は、清掃の手順を提示することからはじめる必要がある。			
		1)-3　今未来手帳の有効使用	1)-3　個々のポートフォリオの記録とスケジュール管理を目指し、様々な行事等の記録を残す上では重要であると考えているが、一部の生徒は十分に活用できなかった。予算が許せば内容のカスタマイズが必要。	（所見） (1)　評価指数関連については，概ね達成できた。職員と生徒の心の交流を目指すなか，校門で挨拶を交わしたり，声を掛けることを全職員で取り組んだ結果，昨年度より挨拶や服装・頭髪等の基本的生活習慣は少しずつ改善されてきた。 (2)　生徒間の人間関係のトラブルやいじめ，非行等の問題解決においては，担任だけではなく，学年団，養護教諭，部活動顧問など全職員がそれぞれの立場から一致団結し，「チーム板高」として組織的に解決に当たることができた。さらに，スクールカウンセラーや中学校，地域，警察・教育委員会等の外部機関の協力が得られたことにより，問題が深刻化する前に解決できたこともあった。 (3)　交通ルールやマナー違反については，自転車も車両であるという意識が少しずつ見られてきたが，交通事故（被害者）に遭遇する場面もあった。今後も様々な場面で注意を促していく必要がある。 (4)　遅刻回数は全体的に減少傾向にあるが，生活習慣や交友関係の乱れ等の様々な原因で遅刻を繰り返してしまう生徒もおり，家庭と連携を取りながら一人一人に応じた指導を続けていく必要がある。		○頭服指導については，引き続き生徒・保護者・教員が情報を共有し，連絡を綿密に行う。流行の髪型の指導について，近隣校と連携をとりながら指導を行っていく。
	2）交通安全・防災教育を推進し，命の大切さを教育する。	3)-1　交通ルールやマナーを守る。	2)-3　重大事故はなかったが，イヤホン使用等の自転車運転のルール・マナー違反によるヒヤリ・ハット場面が多かった。近隣住民からの苦情も多く交通マナーの指導については継続的な指導が必要である。			
		3)-2　地域と連携した安全・防災教育の推進に努める。	3)-2　西部消防組合の協力で防災（避難・消火）訓練を実施した。			
	（下位組織レベル） ①　授業，部活動等学校生活すべての場面での生活指導	活動計画	活動計画の実施状況		朝の挨拶運動や交通指導など、地域の住民からも好評であることから、生徒会、野球部にとどまらず、広がりのある活動にしてもらいたい。	
		①-1　生徒指導課を中心に，各学年団で毎月１回頭髪服装指導を行い，事後指導も徹底して行う。	①-1　生徒指導課を中心に，各学年団で毎月１回頭髪服装指導を行い，事後指導も実施できた。			
		①-2　授業の受け方（態度や課題提出等）などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。	①-2　入学時のオリエンテーション，学年集会，HR活動において，高校における基本的学習・生活態度について説明を行った。また，各教科授業においても本格的な指導に入る前に，説明を繰り返した。宿題等の提出物についても期日を守るよう，年間を通して指導した。			
		①-3　今未来手帳を学年集会等に持参させ,メモをとる習慣を身につけさせる。また日々の生活記録として手帳を使用し、家庭学習の定着を図る。	①-3　個々のポートフォリオの記録とスケジュール管理を目指し、様々な行事等の記録を残す上では重要であると考えているが、一部の生徒は十分に活用できなかった。予算が許せば内容のカスタマイズが必要。			
		①-4　すべての授業で挨拶や身だしなみを指導する。 特に，体育の授業で集団行動の指導を徹底し，学校生活全般を規律あるものにする。	①-4　集団行動の指導の徹底を図ることで，毎時間の授業をはじめ学校生活全般が規律正しく行われるようになった。授業における開始・終了の挨拶の励行や服装等指導の効果が顕れるとともに，意識が高揚してきた。			
		①-5　定期的にゴミの分別や清掃状況のチェックを行い，清掃美化の徹底と校内環境の整備を行い，清掃美化意識を高める。美化チェックの達成率70%以上。	①-5　各クラスの美化委員が、定期的にゴミの分別・清掃状況チェックを行った。美化チェックの達成率は、2月実施が66%だった。机やロッカーの上に物を置いている生徒が多く、来年度の改善事項としたい。			
		①-6　外部機関と連携をして，携帯電話安全教室お及び薬物乱用防止教室を実施して，SNS利用マナーと薬物の危険性について考える機会をつくる。	①-6今年度は、コロナウイルスの感染拡大防止の観点と、体育館が使用できないという理由により中止した。			○　あらゆる場面を利用し，交通安全・マナーの再認識を図る。朝の登校指導を継続して行う
	②　保護者，地域等との連絡強化	②　遅刻カード（授業遅刻も含む）への記入を徹底し，家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数の多い生徒は，保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。	②　カード記入や家庭連絡は徹底できた。毎年面談数は減少傾向にあるが，遅刻回数の多さは特定生徒に偏りが見られる。			
	③　交通安全指導・挨拶運動の実施	③　登校時，校門前での交通指導と挨拶運動を行う。	③　生徒会役員・野球部員とともに毎朝交通指導・挨拶運動を行い，毎週金曜日駐輪・自転車マナーについても指導した。			
	④　生徒の心身の健康	④　心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを，養護教諭や体育・家庭科の教員，教育相談課員等で連絡を取りながら教える。	④　毎日出欠黒板から出欠状況把握し，養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き，担任や学年団で対応した。また，気にかかる生徒はスクールカウンセラーとの面談を勧め，問題行動等の未然防止に努めた。板高祭においてはマスク展を実施し，コロナ禍での心身の健康に関する内容を取り上げたり，「家庭基礎」の授業において，食の意義について常時指導した。			
	⑤　防災教育の推進	⑤　地域の一員としての防災意識の高揚を図る。生徒の防災士試験合格率100%	⑤　防災人材育成講座を3名受講し、防災士試験を4名が受験した。2名が合格し、残り2名は再試験の予定である。			
力をつける，工夫された授業	（全校レベル） 1）　生徒の実態に応じた授業の工夫	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定）　B	コロナ禍にあって県外への進学就職を敬遠している状況があるのではないだろうか。これからの経済状況等を見通した進路指導をお願いしたい。 普通科であることから、特徴を出しにくいが、板野高校ならではの魅力を作ってもらいたい。	2)-1　コロナ禍のなか，生徒の状況を把握する必要があることからホームルーム活動・面談等にに十分時間をとる必要がある。次年度は心のケア等の内容検討ならびに方法の多様化に努める。
		1)-1　授業内容の研究（教科会・公開授業）　各学期1回	1)-1　当初予定が変更となったが、基本研修での研究授業では教科を超えて教員の参加がみられた。			
		1)-2　授業計画時数や学習達成目標を明確化し、見 通しのもてる授業を心がける。	1)-2　年間指導計画を全ての科目において作成し，年間を通じて安定した授業を行うことができた。			
	2）　学ぶ楽しさを味わえる授業の実施	2）　授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上	2）　全ての教科で生徒の満足度80%以上，90%以上の教科もあった。	（所見） (1)コロナ禍のなか事業内容から再検討を要するものもあり，苦心した部分もあったが，評価指標関連については，概ね達成できたようである。特に1年生はこれまでの学習習慣や習熟度に差があるため，年度初めの授業で使用している「スマイル」は，生徒の学び直しと実態把握に効果があった。 (2) 臨時休業・夏季休業の短縮に加え、教材の精選や授業形態の制限など教職員・生徒とも一定の我慢を強いられたが，各教科とも基礎基本の定着を図る授業展開が授業に対する満足度につながった。特に2・3年では各種検定に取り組む生徒も増加した。 (3) 教科学習に対して，自主的・積極的に取り組むことのできない生徒が多く，家庭学習では週末課題に取り組む程度に止まり，圧倒的に家庭学習時間が少ない。授業態度は良好だが，主体的・意欲的に学習に向き合い，より高い学力を求めることが今後の課題である。		
	3）　多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。	3）　学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施	3）　校内の進路ガイダンスは時期が遅れたものの予定通り実施できた。校外でのガイダンスは，時節柄ほぼできなかった。また県外でのオープンキャンパスもコロナの影響で参加者が激減した。			
	4）　教育課程を充実する。	4）　学校評価アンケートで，教育課程の充実度を80%以上，生徒対象・職員対象の科目選択説明会実施，学年団による科目検討会実施	4）「ほぼ充実している」以上の割合は，教員91.7%，生徒83.1%、保護者89.3%と高い評価を得た。科目説明会，学年団による科目検討会も予定通り行うことができ，生徒の充実した科目選択に向けたチェック体制も確立した。新教育課程に関しては，大学入試出題科目が未決定のため，案の提案までに至っていない。			
	（下位組織レベル） ①　学び直し教材「smile」の活用	活動計画	活動計画の実施状況			
		①　1学年の国数英で学び直し教材を活用し、基礎基本事項の徹底をはかる。	①「smile」を活用し，中学校段階における基礎的な学習内容を復習することができた。			
	②　授業評価結果の活用	②　生徒を対象に授業評価アンケートを年1～2回実施する。教科会を開き，参加意欲の低い原因を探り改善に努める。	②　生徒対象にアンケートを実施し，その結果をもとに各教科において検討会を開いて，今後の更なる充実・意欲向上等に向けた具体的方策について協議・研究を深めた。			
	③　進路相談の機会の増加	③　放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。	③　全学年において，各学期当初に設けた面談旬間で生徒と面談を行った。3年生では放課後や休憩時間を利用し，個別面談を適宜実施した。部活動顧問との連携で進路を探るケースもあった。2年生就職希望者においては，3学期に担当者との面談を実施した。			
	④　進路別の補習授業	④　進路別の補習参加人数が5割以上を目指す。	④　補習参加人数は平均して5割を上回った。3年生の補習は，進路実現に大いに役立った。			
	⑤　生徒，保護者の希望進路の実現	⑤　担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報を伝える。 PTAの行事として，県内外の大学・専門学校・企業等を訪問して研修を行い，家庭教育の充実に努める。	⑤　日常的に電話連絡や面談は徹底している。また本年度は時節柄，PTA行事が中止になり，十分な研修ができなかった。役員会で短時間ではあるが，進路研修を実施した。			
	⑥「キャリアパスポート」の活用	⑥　様々な体験活動を記録し蓄積することにより，キャリア教育の充実を図る。	⑥　授業や学校行事，部活動などでの体験を振り返り，今後の生活における改善点や新たな目標を見出すことができた。生徒自身が自発的に記入するまでには至らなかった。			
	⑦　教材の精選や授業の工夫，校外の講座等の参加，各種資格取得	⑦　実験や実習を多く取り入れ，生徒が興味関心を持てる授業を展開するとともに，アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ，生徒の主体的な学習意欲を育てる。数検・英検・漢検などの資格試験について，可能な限り校内で実施し，受験者数・取得者数を増加させる。更に学修認定を行うことで，生徒の動機付けを一層高める。	⑦英検については校内準会場受検が定着し，受検者数も増加している。2年連続2級合格者をだし，着実に成果が上がっていると言える。漢検については昨年度同様2回実施し，2級合格者2名，準2級合格者4名等合格することができた。 各種検定での資格を学修認定することで，生徒の動機付けに加え，学業に対する満足度も高めることができた。			引き続き検定・資格試験等の受検を促し，進路選択の幅を広げていく。
	⑧　学習時間の確保	⑧　学校行事の精選・見直しにより授業時間の増加を目指す。また，チャレンジタイム（テスト前の自主学習時間）や週末課題の実施等で学習時間を確保する。	⑧　考査発表後，6限で終了する日は「チャレンジタイム」を設定し，学習時間の確保に充てた。また，週末課題を与え，家庭学習の充実を図った。課題等未提出者については，提出状況のチェックを確実に行い，HR担任との連携を密にして提出率をアップさせた。			

	⑨　図書の貸し出しの推進 ⑩ 「エシカル消費」の発信普及	⑨　入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で，読書を促す。「図書館便り」を発行し、本の紹介をする。一人当たりの貸出数6冊以上。 ⑩　エシカルクラブを中心に校内外での啓発活動を行う。エシカル通信を発行する。	⑨　本年度はコロナウィルスの影響で、1年生全体に対するオリエンテーションはできなかったが、国語科と協力して図書館の利用の仕方を説明した。「図書館便り」は毎月発行し、本の紹介を行った。一人当たりの貸出数6冊以上を達成した。 ⑩　本年度は校外での啓発活動はほとんど実施できていないが，その際に配布する小物などの製作を行っていた。また，エシカル通信を発行し，本校の取組や活動の報告を行った。			
特別活動・人権教育の充実	（全校レベル） 1）　自他の人権を尊重する態度を育成する。 （下位組織レベル） ①　不登校傾向の生徒の学びの場の保障	評価指標 1)-1　人権学習HRを各学年6回実施 1)-2　いじめ・暴力行為をなくす。 活動計画 ①　本人の希望を聞き，家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。スクールカウンセラーや校外の相談機関，医療機関等と連携をとり，学年会，教育相談課会等で共通理解を図る。	評価指標の達成度 1)-1　人権学習HRを1・2年生は7回、3年生は8回実施することができた。 1)-2　生徒指導課・学年会・人権教育課の連携によりいじめ・暴力行為をなくす指導を効果的に展開することができた。 活動計画の実施状況 ①　学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り，家庭訪問や保護者会の面談等で希望を聞き対応した。別室登校は0名であった。	総合評価 （評定）　B （所見） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策における，感染者・医療従事者への人権への配慮や理解について複数回取り上げ指導を行った。一定の成果は感じられたが十分な理解とまでは及ばなかった。		人間関係や自己表現がうまく構築できない生徒が増加しており，コミュニケーション能力を高める指導を強化していく。
広報の充実	（全校レベル） 1）　ホームページの充実 2）　地域の行事等への参加	評価指標 1）　学校ホームページから学校行事の様子，部活動の試合結果を発信する。 2）　通学路清掃奉仕やボランティアへの参加，地域の行事への参加を募り，様子を広報する。	評価指標の達成度 1）定期的に，関係職員への啓発をし，更新回数も前年度から倍増することができた。 2）　新型コロナの影響でボランティアや地域交流行事への参加は難しかった。通学路清掃は2年生と3年生が実施。	総合評価 （評定）　B （所見） 校外活動や奉仕活動など新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行っての実施を検討する必要がある	ホームページの閲覧数など調査してはどうか。	基本ソフト更新に合わせて，見やすい記事を作成し，より親しみやすい広報に努める。 コロナ禍に即した地域参加のあり方を検討し推進する。